

現状の課題に対する検討の進捗状況について

概要	詳細	平成 28 年度第 1 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と 今後の予定	実施に向けての課題	担当
(1) 歯科医の訪問歯科診療の実施状況などについて	歯科衛生士の活動状況の把握、市民からのニーズ、積極的にやっている、もしくは今後積極的に行っていこうという歯科医師がいるか、などのアンケートをとることができるか。	平成 23 年から平成 27 年の往診の実績は、少しずつ増加を続けている。歯科衛生士の活動については未確認。 それぞれの医院でできることを記入した往診対応表がほぼ完成した。取りまとめた結果の公表方法について、市内全域で並べるのか、圏域ごとに分けて並べるのか、更新頻度などを検討中。 摂食機能療法の保険適用については、現在は少ないが、平成 28 年 4 月の診療報酬改定により少し緩和されるとの情報あり。			高木（康） 委員 伊藤委員
(2) 薬剤師の訪問薬剤管理指導の実施状況などについて	訪問薬剤管理指導の活動状況の把握（施設 or 在宅など）、麻薬の取扱い、中心静脈栄養、IVH 機材、ポンプ、24 時間対応、日曜日の対応を積極的に行っていこうという薬局があるのかなど、アンケートをとることができるか。	アンケートは集計完了。 49 保険薬局のうち 40 薬局は在宅患者訪問薬剤管理指導の届出を行っている。24 時間対応については、対応できる薬局は少ない。平成 28 年 4 月の調剤報酬改定や施設基準が取れるかどうかによって差が出ると思われる。 アンケートの結果は、市や包括、保健センターなどに設置し、在宅対応可能な薬局の一覧という形で利用していただきたい。			木全委員

現状の課題に対する検討の進捗状況について

(3) 各介護保険サービス事業所 についての情報共有について	各事業所において、巡回型、吸引行為、経管栄養、インシュリン注射、吸引、膀胱カテテルの交換、ガン末期患者や困難ケースの受け入れ、看取りなど、専門性や得意とする分野などの整理ができるか。	「介護保険サービス事業所一覧」を情報共有のベースとし、必要な情報を追記する。関係者がこの1冊で「この事業所はどういったサービスができるか」が分かる冊子を8月ごろには完成させたい。作成後は、年1回更新する。 介護サービス事業者連絡会の各部会において、どのような情報の掲載を希望するか統一のフォーマットにてアンケートを実施する。			岡田委員 大野委員 田中委員 四宮委員 宮越委員 瀬口委員 鈴木委員
(4) 研修について	i) 医療関係者において、歯科、薬局を含めて研修を行えると良い。	平成 27 年度より歯科・薬局を含めた医療関係者を主な対象とした「医師とあゆむ勉強会」を開催。他職種の参加も可。 平成 28 年度以降も、定期的に在宅医療に関する題材をテーマとして取り上げて実施する予定。	今年度も継続して「医師とあゆむ勉強会」を開催している。テーマは「在宅での診療報酬について(5、7月)」と「訪問薬剤について(6月)」。 今後の予定として、9月に「ICT」、11月に「医療依存度の高い訪問入浴」、2月に「訪問看護師と医療機関の医師・看護師との意見交換」を実施する予定。医師を対象として、多職種も加わった連携の場	医師の参加を増やすような企画内容となっているか。 医師の率直な意見はどうか。	磯村委員

現状の課題に対する検討の進捗状況について

			となることを目指して開催する。 医療機関向けに、訪問診療などに関する情報をまとめて公開するためのアンケートを実施する予定。		
(4) 研修について	ii) 地域包括支援センター、ケアマネジャー、訪問看護がお互いに勉強をできるような研究会を行えると良い。	お互いの顔が見える連携を大切にするため、まず9月に座談会を開催し、それぞれの立場から忌憚のないご意見をいただく。互いの専門性や弱点を受け止めつつ、よりよい連携に向けて話し合う。 座談会より挙げられた課題点等をテーマとし、12月に第1回の勉強会を開催する。	座談会を10月4日(火)に開催する。8月中旬に、担当で集まって詳細を決定する。		志津委員 大野委員 四宮委員 宮越委員 瀬口委員 鈴木委員
	iii) 日程が重ならないように、調整が必要。	ケアマネジャーの会のホームページにエクセルのスケジュール表を掲載している。 研修等の予定があれば、概要をケアマネジャーの会に連絡すれば会のホームページに掲載できる。	依頼があったものについては随時掲載している。 活用の頻度については、HPの来場者数は増えているが、具体的にどの程度かわからない。	現在ケアマネ連協のHPを使っているが、いつまでか？ 活用頻度の評価を行うことも必要。	田中委員

現状の課題に対する検討の進捗状況について

(5) わた史ノート の普及・啓発 について	わた史ノートをただ渡すだけでなく、包括やケアマネジャー、民生委員、区長など、話すことのできる人を養成できると良い。	平成 28 年度中に、市民や医療・介護従事者のうち希望者を対象にとして、試験的にわた史ノート利用講座を開催する。 試験的に開催した講座の成果を踏まえ、今後の講座の内容や開催方法を検討するが、どこをゴールとし、どこまで目標に近づけられるかは市と調整しながら進める。	民生委員の会議において、わた史ノートが作成された理由や使用方法を説明する。 ケアマネジャーや介護保険サービス事業者に対しても、今後同様の機会を設ける予定。	講座の結果、普及啓発に協力いただける方がどれくらいいるのか。	渡邊委員 大野委員 四宮委員 宮越委員 瀬口委員 鈴木委員 高木（大）委員
(6) 療法士の 取り組みについて	療法士の今後の取り組みについて、具体的に誰がどのようにやっていくか、計画を出してもらえると良い。	平成 27 年 9 月に連絡会を設立。 市の出前講座や市内の集まりに出向いて介護教室を行う。4 月の総会の折に各自の参加可能レベルを集約する。活動できる人の一覧などを作りたいと考えている。 平成 28 年度中に 1～2 回、脳卒中の方の交流の場を設ける。具体的な内容は検討中だが、リハビリは行わない。将来的には、参加者で何か催しができればと考えている。	体操教室は 9 回施行。 5 名の療法士と事務局で対応している。サロンでも講義や体操のニーズ把握を行っている。 県理学療法士会が後方支援を約束している（連絡会と市の窓口になってほしいと考えている）。 脳卒中の方の集まりは、場所や人選などを検討している。	事務局の仕事量が増える中、本業との調整が難しくなることが予想される。	大橋委員

現状の課題に対する検討の進捗状況について

(7) 病院とケアマネジャーの連携について	病院とケアマネジャーの連携について、連絡方法など、意思の疎通を図っていけると良い。	(介護側) 医療機関とは、入院・外来を問わず基本的に「小牧市版医療連携シート」により連絡をとる。 医療連携シートの活用については、個々のケアマネにより方法が様でないと思われる。介護支援専門員連絡協議会として活用手順などの説明会を平成 28 年度中に開催する。	6 月 17 日に「病院と在宅との連携を考える研修会」を開催。その中で「医療連携シート」の活用について、市民病院、小牧第一病院、ケアマネジャー、介護サービス事業者が一堂に会して意見交換し、「医療連携シート」を活用することで合意した。8 月上旬にケアマネ連協からケアマネジャーあてにシートの活用を促す通知文を発送する予定。	今後、ケアマネジャーがシートを活用することが重要。繰り返しお知らせすることにも必要と思われる。	田中委員 大野委員
		(医療側) 事業所などからの問い合わせは地域連携室で対応する。病床訪問時、事前に地域連携室に連絡をもらえれば MSW などが案内できる。 要支援・要介護の患者が入院した場合、在宅での情報を医療連携シートで共有できればと考えている。情報提供の範囲については、介護側の職員とすり合わせをしたい。			菅沢委員

現状の課題に対する検討の進捗状況について

(8) ICT の構築について	小牧市において、統一した形で ICT を構築できると良い。	医療介護総合確保法に基づく愛知県の計画として在宅患者情報を共有するシステムを平成27～29 年度で整備することとなっており、当協議会においてもご意見をいただきながら整備を進めていく。	他市町の状況を調査した。 9 月に医師会に向け ICT の説明会を行う。 今後、運営主体や契約についてなど、運用開始に必要な事項を決定していく。	高木（大） 委員
-----------------	-------------------------------	---	--	-------------